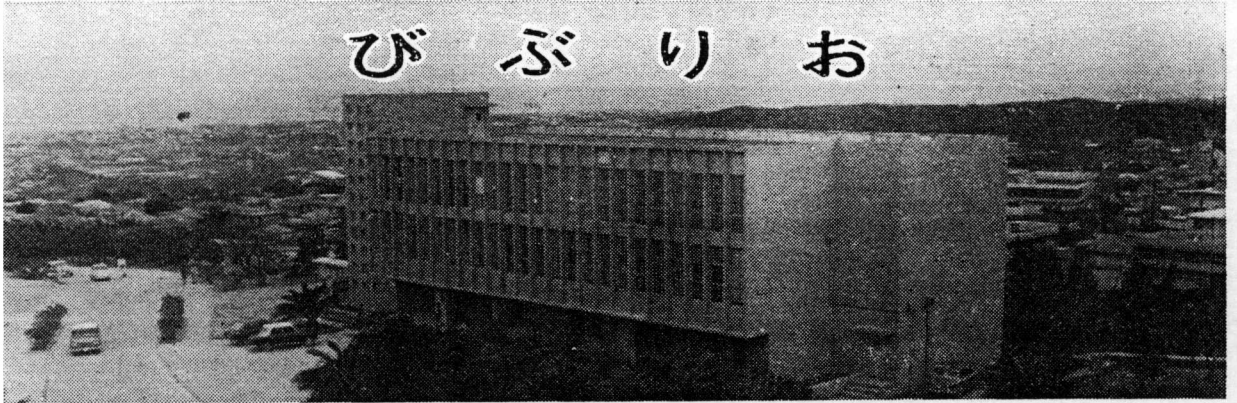


びぶりお



VOL.1 NO.4

The University of the Ryukyus Library Bulletin

1968. 7. 1

図書館の思い出

外間政章

私は琉大の創立以来、大学図書館に一方ならぬお世話になっている者であるが、創立当時の小規模の図書館から今日の堂々たる図書館に発展した過程を顧みる時、転た今昔の感に堪えないものがある。

私は1956年10月から1年間館長代理を勤めたこともあるので、特にその変遷には関心を持っている。竜潭池畔に聳えるあの近代建築の偉容と、既に十数万冊の各種の書籍を備えた我が琉大図書館の発展振りは大学に関係あるものとして喜びと誇りを感じるものである。

とりわけ琉大図書館の優れているところは、郷土史に関する貴重な文献を多く備えているということである。館内に伊波文庫とか、ブル・コレクション等があることは人々がよく知ることである。また創立当時、東京の沖縄財団から幾多の琉球関係の貴重な書籍を寄贈して貰ったが、そのうちには1853年に来琉したペリー提督の東洋遠征記という珍本も含まれている。これは故仲原善忠氏が東京で苦心して入手されたものであり、沖縄財団理事長比嘉良篤氏を通じて琉大図書館に寄贈されたものである。

ペリー提督の遠征記は3冊1組になっているが、その第1巻には彼の琉球訪問に関する詳しい記事と、当時の琉球の風物、人物等幾多の挿絵があり、私はそれを見て心を躍らせ、毎日図書館通いをし、むさぼるようにこれに読みふけり、これを丹念にコピーして研究の資料にしたものである。幸い当時の館員の皆様が便宜を与えて下さったので、私はこのささやかな研究をまとめて、「原文・和文対訳、ペリー提督沖縄訪問記」と題する500頁ほどの単行本を東京で出版することができたが、これは全く琉大図書館のおかげであり、今もって感謝に堪えない次第である。

前述のブル・コレクションには1846年から8年間那覇に滞在し、琉球語の研究に没頭し、聖書を琉球語に翻訳した篤学の英人宣教師伯徳令（ベッテルハイム）に関する資料やその他いろいろの貴重な文献があり、若い研究者の出現を待っているようである。琉大図書館は実に知識の宝庫ともいべき所である。私は学生諸君がこの立派な図書館を愛し、朝な夕な魂の拠り所とするよう切望する。

新入生諸君は一日も早くこの素晴らしい琉大図書館（志喜屋記念図書館）に慣れて、そこに埋蔵されている宝を掘り出すようにして下さい。
(前琉大教授) 非常勤講師

国立国会図書館

雑誌記事索引 人文・社会編、科学技術編

今日程、大量の出版物が発行されたことはかつてなかった事である。このような出版事情の変化は、資料をみつけたすと云う点で学問する者に、はかりしれない時間と労力のロスを余儀なくさせている。どのような資料が発行されているかを探すのも容易でないが、どんな論文が発表されたかを探し出す事はなおさら容易でない。

国立国会図書館発行の雑誌記事索引、人文・社会編、科学技術編は、完全なものではないが現状では我国で唯一の総合的な雑誌記事索引で、出版物の山からほしい論文や、記事を探すにはなくてはならない道具になっている。即ち、ある研究テーマに関する論文があるか、また、探し求めている論文がみつかったら、それが何と云う雑誌の何巻何号に載っているか、などについて教えてくれるのが雑誌記事索引である。

琉大図書館（4階雑誌室）には、人文・社会編、科学技術編の両方とも創刊号(若干の欠号はあるが)より備えつけて利用させている。

雑誌記事索引—人文・社会編—の創刊は昭和23年(1948)9月で 国立国会図書館に納本された和雑誌（大学紀要及び官庁出版物を含む）の中、人文科学及び社会科学関係雑誌に発表された論文の索引である。

創刊以来現在までに編集方法や、採録誌にかなりの変動があったが現在は学術雑誌を中心に約1300種（1967年1月号）から採録している。

論文の配別は、主題別による分類の中を項目（件名に相当）に分け、さらに著者名の五十音順にしてある。また、巻末には採録誌名一覧を付している。

雑誌記事索引—科学技術編—の創刊は昭和25年（1950）1月で、国立国会図書館に受入れられた雑誌類及び官庁関係の逐次刊行物など約1000種に発表された論文の索引である。

前述の人文・社会編同様編集上の方法や、内容にも色々と変遷があったが、1967年1月号現在の論文の配別は主題別に、分類表にもとづいてその中を著者名の五十音順にしてある。巻末には利用者の便宜をはかって、雑誌略名表、収録誌名一覧及び件名参照索引などを付している。

以上、二つの雑誌記事索引は雑誌閲覧室に備えてあり、開館中はいつでも利用出来るようになっている。（参考司書 雑誌担当 新井）

新聞紙上に紹介された「琉大図書館」の足あと (1)

- 琉大開校記念式—総長就任式も行う— (沖タ1951、1、17)
- 社説 教育文化の朗報しきり (沖タ1951、1、18)
- 琉大に図書を (沖タ1951、1、30)
- 琉大図書館を充実 一般から寄附募集 (沖タ1951、1、30)
- 故伊波普猷氏の蔵書、那覇市が全部譲受け (琉新1951、10、24)
- 資料を交換して研究 日琉の科学提携琉大も蒐集に力こぶ (沖タ1951、11、19)
- 志喜屋孝信先生功績顕彰胸像建設費募集広告 (沖タ1952、10、9)
- 社説 志喜屋図書館の建設 (琉新1952、10、19)
- 志喜屋図書館建設にスキューズさんも感激協力を約す (琉新1952、10、30)
- 若き琉大に寄す 研究と大学図書館の必要<島袋盛敏> (琉新1953、1、5)
- 志喜屋氏の功績讃える 記念図書館の建設募金急ぐ (琉新1953、9、3)
- 志喜屋記念図書館設計図なる (琉新1953、11、8)
- 志喜屋記念図書館設立費をクジで、四月から売出す (琉新1954、3、31)
- 琉大図書館に20万ドル募金 全米大学に訴え (沖タ1954、6、2)
- 志喜屋図書館の起工式 (沖タ1954、6、11)
- 初代学長を記念する。志喜屋図書館起工式 (琉新1954、6、11)
- 工事急ぐ志喜屋図書館 年内には完成 (沖タ1954、10、23)
- 飛躍する図書館蔵書2万6千。次第に充実 沖タ1954、11、2)
- 宝クジが生んだ幸運の琉大図書館—建設募金募集で「琉米親善の鍵」
を射止めた金城金蔵氏の篤志 (沖タ1954、11、24)
- 志喜屋図書館に米国から寄贈本 (琉新1955、3、9)
- 「伊波文庫」琉大に (沖タ1955、4、3)
- 資金不足で工事中止、志喜屋図書館吹きさらしの4、5階 (沖タ1955、5、10)
- 「琉球処分」琉大図書館に貴重な古文獻 (沖タ1955、5、21)
- 「伊波普猷文庫」琉大におさまる (沖タ1955、6、21)
- 「伊波文庫」琉大に納本 (沖タ1955、8、10)
- 「伊波文庫」琉大図書館入り (沖タ1955、8、10)
- 志喜屋図書館来月完成 (沖タ1955、8、16)

<註> 「沖タ」—「沖繩タイムス」の略
「琉新」—「琉球新報」の略

図書館事情

<四部叢刊の受贈について>

国文学科、中村竜人教授が本土研究出張中、母校の大東文化大学を訪ねた際、恩師竹田復博士、金子昇理事の御芳情により、琉球大学へ四部叢刊を寄贈していただくことになりました。この程入荷し、受入整理を終えました。この貴重な叢書の入手に御尽力いただいた大東文化大学ならびに中村教授に感謝申し上げます。

<四 部 叢 刊>

長い歴史をへてきた中国の文献にとつては、版の善悪はとくに重要であるとの見地から経、史、子、集の4部にわたり、古典の重要なものについて、日本に珍藏されているものまで、当時入手できる最上の版323種を集めて写真印刷したものである。多数の著名の学者が編集にあたり、1921年（民国11）に上海、商務印書館から初編が出版された。その後、再版、続編などが出されている。中国の古典研究上なくてはならない叢書である。本館に寄贈されたのは四部叢刊初編縮本 台北台湾商務印書館 民国56,(1967) 110冊（日円144,000円）である。

<沖縄県史編集所、本館所蔵史料複写実施>

1968年3月26日から4月3日の10日間にわたつて、本館所蔵史料を次の通りマイクロフィルムに収めた。

伊波普猷文庫	52点	約3,400コマ
島袋源七文庫	30 "	" 1,300 "
宮良殿内文庫	96 "	" 5,000 "
仲原善忠文庫	33 "	" 2,300 "
E.R.BULL文庫	3 "	" "
一般史料	75 "	" 7,000 "
その他	1 "	" 35 "
合計	290 "	" 19,035 "

◎なお、個々の史料名は、「図書館年報」に掲載する予定である。

<政府立中央図書館所蔵郷土新聞保管状況調査実施>

1968年3月14日に参考司書新城が調査した。詳細は「図書館年報」に掲載する予定である

琉球大学図書館報“びぶりお” VOL. 1. No.4. 1968年7月1日発行
編集発行人 平良恵仁 琉球大学附属図書館発行
沖縄那覇市当蔵町3丁目1番地 電代表 ④—0101内線240